

尿路感染症に対する Viccillin-S 錠の使用経験

国立埼玉病院 泌尿器科

池 田 直 昭

織 田 孝 英

A CLINICAL EXPERIENCE WITH VICCILLIN-S IN URINARY TRACT INFECTION

Naoaki IKEDA and Takahide ODA

From the Department of Urology, Saitama National Hospital, Saitama, Japan

Viccillin-S, an antibiotic mixture consisting of equal amounts of ampicillin sodium and cloxacillin sodium, was administered orally to 24 cases of urinary tract infection. These cases consist of 10 with prostatitis, 9 with acute cystitis, and the other complicated urinary tract infection.

Clinical results were excellent in 14(58.3%), good in 3(12.5%), fair in 3(12.5%) and poor in 4(16.7%).

The overall effective rate was 70.8%. In 14 cases of complicated urinary tract infection, the effective rate was 60%.

Side effects were noticed in 2 cases, one was allergic eruption and another one was anorexia. No abnormal laboratory findings were observed.

1 はじめに

Viccillin-S は ampicillin と penicillinase に安定な cloxacillin との合剤であり、その相補作用により penicillin 耐性菌にも効果が期待されるもので、本剤は大部分の penicillinase 産生ブドウ球菌を含むグラム陽性およびグラム陰性の細菌に対して、広範囲に抗菌作用を示し、作用は殺菌的である。今回われわれは Viccillin-S 錠を尿路感染症に使用し、満足すべき効果を得たので報告する。

2 対象および投与方法

1) 対象

外来患者における膀胱炎、前立腺炎を中心に尿道炎、腎盂腎炎らを含む24例の尿路感染症対象とした。

2) 投与方法

1回 750 mg を1日3回経口投与した。

3 効果判定基準

以下の4段階判定を行なった。

著効：起炎菌の完全消失と尿所見の完全改善、およ

び自覚症状の完全消失。

有効：最初の起炎菌が完全に消失した上、自覚症状または尿中白血球のいずれか1つが消失した場合。

やや有効：尿中細菌が減少した上、自覚症状、または尿中白血球のいずれか1つが軽快した場合。

無効：尿所見、自覚症状の全く改善されない場合。

なお、菌交代を示した場合、治療対象とした最初の起炎菌が消失した場合は、治療中の症状の軽減を勘案した上で、有効、またはやや有効の判定とした。

4 成績

全投与症例についての臨床治療効果は Table 1 に示したごとくである。全症例24例中、著効14例、(58%)、有効3例(12.5%)、やや有効3例(12.5%)、無効4例(16.7%)であり、有効率(著効+有効)は70.8%を示した。

細菌学的効果については Table 2 に示したが、起炎菌は大腸菌の20例がその大部分を占め、その他 *α-Streptococcus* 2例、*Staphylococcus aureus* 1例、*Enterobacter cloacae* 1例であった。大腸菌に対しては著効12例(60%)、有効2例(10%)、やや有効3例(15%)、無

Table 1. 臨床治療効果

No	名前	年	性	疾 患	尿中細菌	菌の 消長	1 日 投与量	投与 日数	効果
1	K.A	45	♂	前立腺炎	α -Streptococcus 10^3	消失	2,250mg(力価)/分3	45	有効
2	M.M	35	♂	"	"	不変	"	7	無効
3	T.K	44	♂	"	E.coli 10^5	消失	"	42	著効
4	T.I	12	♂	"	"	消失	"	18	"
5	S.H	51	♂	"	"	不変	"	4	無効
6	S.I	61	♀	"	"	減少	"	4	やや有効
7	K.Y	43	♂	"	"	消失	"	43	有効
8	K.M	39	♂	"	Staph. aureus	消失	"	14	著効
9	Y.M	26	♂	"	E.coli 10^4	消失	"	42	"
10	K.N	26	♂	"	"	不変	"	21	無効
11	S.O	28	♀	急性膀胱炎	E.coli 10^5	消失	"	7	著効
12	H.E	39	♀	"	"	消失	"	7	"
13	M.H	53	♀	"	"	消失	"	7	"
14	N.I	31	♀	"	"	消失	"	4	有効
15	K.K	62	♀	"	"	消失	"	7	著効
16	M.K	17	♀	"	"	消失	"	7	"
17	M.M	13	♀	"	"	減少	"	8	やや有効
18	M.M	29	♀	"	Enterobacter	消失	"	4	著効
19	E.M	25	♀	"	E.coli 10^5	消失	"	8	"
20	K.O	68	♂	副睾丸前立腺膀胱炎	"	消失	"	39	"
21	M.Y	40	♂	前立腺膀胱炎	"	消失	"	46	"
22	M.A	36	♂	尿道 炎	"	不変	"	7	無効
23	O.S	63	♀	腎 盂 腎 炎	"	減少	"	58	やや有効
24	M.S	58	♀	"	E.coli 10^4	消失	"	14	著効

効3例(15%)で有効率は70%を示し、臨床治療成績ともども有意の結果と認められた。

疾患別効果では Table 3 に示すごとく最も単純な感染症である膀胱炎に対する効果が著明で、有効以上(著効+有効)を示したのは9例中8例で88.9%であった。複雑性尿路感染症の加味された前立腺炎に対しては有効率60%で単純性のものよりやや劣るが、本症は他の薬剤による効果でも同様に難治性の疾患であるので、一概に使用不適とは断定できない。他の複雑性尿路感染の5例では有効率が60%で、前立腺炎のそれと等しい結果であった。

5 副作用

全症例24例中1例に penicillin allergy と思われる

薬疹が、1例に胃障害による食欲不振が認められたが、前者は薬剤の中止により、後者は胃腸薬の併用により緩解された。その他本剤による重篤な副作用は全く認められなかった。

6 まとめ

penicillin 系の複合性抗生物質製剤の目的の多くは penicillinase に対する安定性確保により penicillin 耐性菌にも効果を期待することにより ampicillin を軸に penicillinase に安定なものを配するか、penicillinase 阻害作用を有するものを配するかのいずれかのようであり、Viccillin-S は前者の範疇であり、このような薬剤の存在は起炎菌の決定が当初困難な場合や、混合感染が考えられる場合 first choice の抗生剤

Table 2. 細菌学的効果

菌種	効果	著効	有効	やや有効	無効	計
E.Coli		12	2	3	3	20
α -Streptococcus			1		1	2
Staphylococcus aureus		1				1
Enterobacter cloacae		1				1
計		14	3	3	4	24

Table 3. 疾患別効果

疾患	効果	著効	有効	やや有効	無効	計
急性膀胱炎		7	1	1	0	9
前立腺炎		4	2	1	3	10
副睾丸炎 + 前立腺炎		1				1
膀胱炎 + 前立腺炎		1				1
尿道炎					1	1
腎盂腎炎		1		1		2
計		14	3	3	4	24

として使用するのに便利である。治験結果としてはすでにわれわれが報告した cephadrine, carbenicillin, ticarcillin のそれと比較すると, cephadrine の効果よりやや劣り, carbenicillin, ticarcillin らと同程度の効果であるという印象であったが, これら薬剤はそのスペクトラムなどから first choice とするに妥当でない。Vicillin-S は前記の理由で first choice として適している点が強調できるし, また, 治療効果からも単純性尿路感染症には90%近い有効性を示している点から, この面に最も first choice 薬剤として価値を認め

ることができることを強調したい。

7 結語

1) 尿路感染症に対して Vicillin-S を使用し, 膀胱炎に88.9%, 前立腺炎に60%, 他の複雑性尿路感染症に60%の有効率を得た。これより急性単純性膀胱炎に卓効を有するとの結論を得た。

2) 複雑性尿路感染症に対しては比較的満足すべき結果と言え, 他薬剤と同程度の効果が認められた。

3) 本剤使用による重篤な副作用は全く認められな

った。

4) 細菌学的には大腸菌に対する有効率70%が得られた。

5) 複合抗生物質製剤としての本剤の意義を論じ、起炎菌未決定の場合、混合感染の可能性を有する場合の first choice としての本剤の有用性を強調した。

文 献

- 1) 池田直昭・東福寺英之：尿路感染症に対する Cephadrine の臨床的検討. Chemotherapy, 23 : 1, 340, 1975.

2) 池田直昭・織田孝英・ほか：泌尿器科領域における Carbenicillin の基礎的、臨床的研究. Chemotherapy, 25 : 9, 2750, 1977.

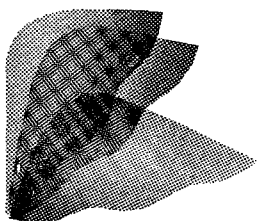
3) 勝岡洋治・池田直昭・ほか：Carbenicillin indanyl sodium の泌尿器科領域における使用経験. Chemotherapy, 692, 1975.

4) 池田直昭・織田孝英・ほか：泌尿器科領域における Ticarcillin (TIPC) の基礎的、臨床的検討. Chemotherapy, 25 : 2750, 1977.

(1980年5月21日受付)

健保適用

慢性肝疾患の 肝機能異常を改善する……



健保略称
強ミノC

▶適応症 「慢性肝疾患における肝機能異常の改善」

とくに、GOT, GPT, γ -GTPの改善効果が著しい。

▶用法・用量 1日1回、40mlを静脈内に注射する。
年齢、症状により適宜増減する。

■グリチルリチン製剤

強力ネオミノファーゲンシー

包装 20ml 5管・30管, 5ml 5管・50管, 2ml 10管・100管

→使用上の注意などについては、添付文書をご参照下さい。

●内服薬

グリチロン 錠二号

包装 100錠, 1000錠, 5000錠

ウチ

合資
会社

ミノファーゲン製薬本舗 [〒160] 東京都新宿区新宿3-1-12